

事業報告概況
法人全体

二〇二〇年度（令和二年度）は、青梅学園の建替工事が本格化した。しかしながら、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、ゴールデンウィークを中心に3週間ほど工事が止まり、最終的に、完成が、その分遅れた。工事関係者に感染者もけが人も出ず、無事に完成した工事関係者のみなさまはじめ関係者のみな様に対し感謝に堪えません。

令和3年2月28日に引き渡しを受け、3月は、青梅学園の保護者のみなさまの見学に続いて、利用者さん、スタッフさんがグループ別に自分たちのお部屋を見たり、お弁当を食べたりして見学を行った。コロナ禍であることから、竣工式を小規模とし、見学希望のある施設のみなさまに、見学をしていただいた。令和3年度になったが、4月3日に竣工式、4月9日に利用者の引越しを無事に行えた。

二〇二〇年度（令和二年度）の法人の歩みは、青梅学園の建設とコロナ禍での感染予防措置、そして、綱川先生指導の人事考課制度の導入と困難な中だったが、すべて、滞りなく、行うことが出来た。法人運営の中心に「経営推進会議」には、指田修理事長にも毎回参加

いただき、協議を進めてきた。今年度は、昨年度と変わらぬ体制で施設長、主任も安定した運営を行うことが出来、引き続き永続可能な体制を整備すべく、ガバナンスの強化に力を入れ、進めてきた。

青梅学園は、清瀬の東京都による代替施設において利用者、スタッフで協力して過ごすことが出来た。その中で、一人部屋での生活、そして個室での生活と段階的に新園舎での生活を想定して個室ユニットでの生活へ順応できるように経験を積んできた。コロナ禍であるので、ご家族との面会や帰省、行事なども大きな制限を受けることとなり、近隣のコンビニなどを利用しての個別の買い物や自動販売機からの缶飲料の購入など、スタッフとマンツーマンでの支援を展開し、利用者の心の安定を図ってきた。

かすみの里は、活動の再編成を行い、就労Bは、作業内容を転換し、工賃アップも図ることが出来た。また、生活介護事業でも重度の活動グループから働く生活介護のグループへの編成替えを行ったが、その利用者たちも対応出来、重度のグループも利用者人数が減った分、活動室を広く使えたり、活動を充実することが出来た。また、コロナ禍の影響で、緊急事態宣言

が出ると休ませるグループホームやご家庭があり、1名、お休みから、年度末で退所へと移行された。前年度設立したケアホーム南風との協力関係を充実し、かすみの里の利用者の短期入所利用なども行うことが出来た。日向の家のバックアップも継続して行ってきた。

ケアホーム南風は、当法人初めての本格的な共同生活援助として10名の利用者と短期入所2床で運営を行ってきた。ケアホームからかすみの里へ歩行で通う運動と、定型的な食事の提供等により、体重の適正化や成人病的な症状も緩和されつつある。短期入所は、利用促進にパンフレットの作成をし、近隣の相談支援事業所へおいてもらったり、かすみの里の保護者会で説明したりして、利用いただいたが、希望があってもコロナ禍であることを理由に利用を控えられる方もいらつしやう。

相談支援事業所くらしきは、青梅拠点の利用者を中心に、外部の相談者も対応してきた。

新宿拠点は、シャロームみなみ風も6年目を迎え、障害者支援施設の入所利用者、通所部門の利用者も満床となり、安定した運営が出来るようになってきた。しかしながら、青梅拠点よりも新型コロナウイルス感染症対応は、深刻で、スタッフに施設内に泊まり込めるように布団を購入したり、マスク、フェイスガード、防護着等の備蓄も行い、感染症予防専門の看護師の指導も受け、室内備品の見直し等も行った。スタッフ、

利用者とも発熱等、感冒症状がある度に、通院しPCR検査を行い、年度中、感染者は出なかった。利用者には、感染予防をしながら、音楽療法など、楽しい活動を提供してきた。ご家族との面会や帰省は、ご遠慮いただくこともしばしばあった。就労継続支援B型・カフェおんぶらーじゅは、縮小を余儀なくされ、週末の夜の営業も自粛した。利用者の収入が減ってしまふことを補うため、クラウドファンディングを実行し、寄付金を集め、備品等の購入をはじめ、利用者への収入の補助とした。ポットが無いため、コンビニとの販売契約するなど、収入を少しでも減らさないように取り組んだ。通所の利用者の中には、コロナの関係で通所を自粛される方もおりました。本年は、アミーゴフェスティバルをはじめとした外部との交流行事は、自粛させていただいた。

理事会評議員会を定例的に開き2020年度（令和2年度）の事業の推進を図った。今年度は、法律の改正に伴う小規模な規約の変更等の業務、青梅学園の建設に関する確認などを行った。又、独立行政法人医療機構へは、通所施設の建設費用の借入金償還金も含め、滞りなく、支払いを行った。

以上事業の概況報告とさせて頂きます。

社会福祉法人 南風会

事業活動計算書

(自)令和 2年 4月 1日(至)令和 3年 3月31日

資金収支計算書

(自)令和 2年 4月 1日(至)令和 3年 3月31日

(単位:千円)

(単位:千円)

勘定科目		当年度決算(A)
サービス活動増減の部	収益	
	就労支援事業収益	15,989
	障害福祉サービス等事業収益	1,132,795
	経常経費寄附金収益	3,173
	サービス活動収益計(1)	1,151,957
	費用	
	人件費	824,841
	事業費	114,721
事務費	126,394	
就労支援事業費用	14,827	
減価償却費	75,186	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△46,066	
サービス活動費用計(2)	1,109,903	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	42,054	
サービス活動外増減の部	収益	
	借入金利息補助金収益	882
	受取利息配当金収益	24
	その他のサービス活動外収益	9,406
	サービス活動外収益計(4)	10,313
費用		
支払利息	1,988	
その他のサービス活動外費用	4,263	
サービス活動外費用計(5)	6,250	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	4,062	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	46,116	
特別増減の部	収益	
	施設整備等補助金収益	406,742
	施設整備等寄付金収益	13,134
	特別収益計(8)	419,876
	費用	
	基本金組入額	22,656
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△9,411
国庫補助金等特別積立金積立額	406,742	
特別費用計(9)	419,987	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△111	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	46,005	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	655,990
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	701,995
	基本金取崩額(14)	
	その他の積立金取崩額(15)	145,866
	その他の積立金積立額(16)	71,363
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	776,499

勘定科目		決算(B)
事業活動による収支	収入	
	就労支援事業収入	15,989
	障害福祉サービス等事業収入	1,132,795
	借入金利息補助金収入	882
	経常経費寄附金収入	3,173
	受取利息配当金収入	24
	その他の収入	9,406
	事業活動収入計(1)	1,162,269
	支出	
	人件費支出	822,193
事業費支出	114,885	
事務費支出	126,350	
就労支援事業支出	14,084	
支払利息支出	1,988	
その他の支出	4,263	
事業活動支出計(2)	1,083,762	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	78,507	
施設整備等による収支	収入	
	施設整備等補助金収入	406,742
	施設整備等寄付金収入	13,134
	施設整備等収入計(4)	419,876
	支出	
設備資金借入金元金償還支出	17,894	
固定資産取得支出	888,884	
ファイナンス・リース債務の返済支出	3,679	
その他の施設整備等による支出	412	
施設整備等支出計(5)	910,869	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△490,993	
その他の活動による収支	収入	
	積立資産取崩収入	147,892
	その他の活動による収入	791
	その他の活動収入計(7)	148,683
支出		
積立資産支出	80,324	
その他の活動による支出	1,913	
その他の活動支出計(8)	82,237	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	66,446	
予備費支出(10)	—	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△346,039	
前期末支払資金残高(12)	519,717	
当期末支払資金残高(11)+(12)	173,678	

(表示形式の関係で集計額欄と集計が一致しないことがあります。)